

# [那珂川町]

～清流・那珂川の恵みに加えて新たな地域ブランドの展開を図る

個性豊かな県内の各市町を  
ご紹介するこのページ。  
今回は、那珂川町をご紹介します。



## ▲那珂川の清流

町名の由来ともなった清流・那珂川や美しい里山が織り成す自然豊かな町、それが那珂川町です。平成25年10月には、町内の小砂地区が県内の自治体・地域で初めて「日本で最も美しい村」連合へ加盟承認されました（全国でちょうど50番目、関東地方では群馬県内の3カ所に続く4番目）。

この地では、古くから豊かな人の暮らしが営まれてきました。町内に残る数カ所の古墳や奈良時代の役所（官衙）跡はその証で、また町内の馬頭地区で産出した砂金が東大寺の大仏鑄造に使われるため献上されたとの記録も残っています。

現在の那珂川町は、そうした自然や歴史遺産を軸に美術館や温泉、キャンプ場などの観光資源の開発が進み、それに併せて地域ブランドの創出などを進め、町の経済の活性化を図られています。



News

## 「なかがわ元気フェスタ」

2014年以来、毎年11月に開催される町をあげての祭。温泉トラフグや八溝ししまる、ほんもろこなどの那珂川町産食材を使ったグルメや、ライブ・ご当地アイドルのショーなどさまざまなイベントを開催し、町の魅力を町内外に発信・PRします。昨年は2日間で約11,000人が来場しました。今年は11月9日(土)・10日(日)に開催予定です。



# 山と清流の恵みを活かした地域ブランドを展開

那珂川町では今、山と清流、温泉など、恵まれた環境を活かした地域ブランド（那珂川町ブランド）の展開が積極的に進められています。

従来より那珂川町では、「天然鮎の遡上日本一」を誇る那珂川が全国的な知名度を誇り、観光やなや鮎釣り、鮎料理が大きな観光資源となってきました。最近では鮎に加え「八溝ししまる」「八溝そば」「温泉トラフグ」などが新たな那珂川グルメとして親しまれています。



▲シンボルマーク



▶現在、那珂川町ブランドは40品。パンフレットを制作し、PRしています

### ●八溝ししまる

八溝山系でとれた野生のいのししの肉。自然の餌を食べて育ったいのししは臭みのない良質な肉質が特徴で、町内の飲食店等で八溝ししまるを使った独自の料理を提供しています。



▲ししまる丼

▲ししまるそば

### ●里山ほんもろこ

関西で高級魚として珍重される、コイ科の小魚。県立馬頭高校水産科が県内初の養殖に成功し、休耕田での養殖がスタートしました。唐揚げや甘露煮は絶品です。



ほんもろこの唐揚げ▶

### ●温泉トラフグ

那珂川町の温泉の泉質（多く湧出する塩化物泉は、ナトリウム・マグネシウム・カリウムの濃度が海水の3分の1～4分の1）を活かし、温泉水で養殖を行うとらふぐです。海で獲れたふぐより味が濃く、身質もしっかりしている人気です。



### ●八溝そば

寒暖の差が大きく良質なそばが栽培され、那珂川の清水にも恵まれた那珂川町一帯は、県内屈指のそば処。古くから「八溝そば街道」として親しまれてきました。5月には「八溝そば街道そばまつり」も開催されます（今年は5月18日(土)・19日(日)予定）。



### ●馬頭広重美術館

歌川広重の版画・肉筆画を中心に、小林清親・川村清雄・徳富蘇峰の作品等4500点を所蔵・展示。東京五輪のメインスタジアムである新国立競技場の設計に携わった、隈研吾氏の設計による美術館です。



### ●道の駅ばとう

那珂川沿いの小高い丘に位置し、日光・那須連山を一望できる道の駅。地元産の野菜の販売のほか、レストランでは八溝ししまるの料理も味わえます。



### ●ふるさとの森公園

アスレチック遊具などを備えた家族で楽しめる公園で、敷地内に歴史遺産と自然を活かした「ふるさと館」、江戸時代の民家「匠の館」、貴重な民俗資料を展示する「民俗資料館」などの施設が充実。



### ●なす風土記の丘資料館

ふるさとの森公園内の資料館。一帯（なす風土記の丘）には大規模な古墳も存在し、那須周辺の古代の文化や自然に関する展示を行っています。資料館からは奈良時代の役所（官衙）跡を一望にできます。



### ●鷺子山上神社

栃木・茨城の県境に位置し、参道や本殿の中央を県境が貫きます。社務所は両県にあり、宮司もそれぞれ奉職。日本一の大フクロウのあるフクロウ（不苦勞）の神社で、運氣上昇・金運のパワースポットです。



▲日本一の大フクロウ

### ●ゆりがねの湯

美人の湯として人気の、町営の日帰り温泉。西向き露天風呂からは那珂川の絶景や夕日の沈む様を一望にでき、「日本で最も美しい夕陽の郷」としても有名です。



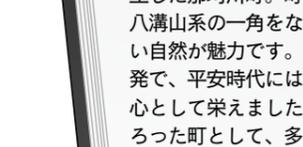
### ●カタクリ山公園

八溝県立自然公園内に位置し、自然豊かな3haの林の斜面を関東最大級・100万株のカタクリの群生が埋め尽くします。



### ●天然鮎

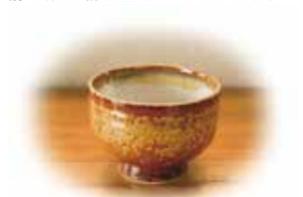
「天然鮎の遡上日本一」の那珂川。平成14年度には「天然アユがのぼる100名川」に選定されました。6月1日の解禁日には太公望が多数つめかけ、観光やなも人気です。



## 那珂川町の見どころ

### ●小砂焼

水戸藩主・徳川斉昭公が発見した陶土をもとに藩営の御用製陶所として誕生した焼き物で、金結晶と呼ばれる黄金色の釉薬の上品な風合いが魅力。今も複数の窯元が閑静な焼き物の里をなしています。



## profile

### ●那珂川町

平成17年10月、那須郡の小川町・馬頭町の合併で誕生した那珂川町。町内には関東屈指の清流・那珂川が流れ、八溝山系の一角をなす鷺子山塊の里山が広がるなど、美しい自然が魅力です。また一帯は古墳時代から人の営みが活発で、平安時代には那須官衙が築かれて那須国の政治の中心として栄えました。現代の那珂川町は、自然と歴史がそろう町として、多くの人をひきつけています。

▶面積：192.78平方km

▶人口：16,304人（6,062世帯）

〔平成31年4月1日現在〕